

# 【安全で快適な県土の形成】

## ～ 農業水利施設の多面的機能のPR活動の取組み ～

### 1 地域の概要

本地区は、福島県中通りのほぼ中央に位置し、東に阿武隈川、西に猪苗代湖があり、郡山市を中心とし南北30km、東西27kmの地域である。猪苗代湖の水を郡山市、須賀川市、本宮市、猪苗代町、大玉村に跨る水田約9,600haに灌漑を行っている。地形は、猪苗代町を除き阿武隈川に向かって東方に傾斜し、標高は270m～220mで都市近郊の水田地帯である。管理する施設は水路約500km、頭首工26箇所、揚水機11箇所、ダム・調整池5箇所、小水力発電所1箇所となっている。

### 2 組織の概要

名称：安積疏水土地改良区

組織構成：組合員9,189人、理事16人、監事3人、総代70人  
職員29人

設立年月日：昭和27年7月18日

### 3 取組の契機、内容

明治11年、内務省は、「一般殖産及華土族授産」・「福島県下字対面原及接近諸原野開墾」を決定し、南は九州の久留米藩、北は山形の米沢藩等全国九藩から500戸を入植させ、安積の原野1,000haを農地に開拓させようとした。この事業を成功させるためには、大量の灌漑用水が必要となり明治12年国直轄事業として、猪苗代湖疏水開鑿事業が開始され、3年後127kmの水路が完成した。この安積開拓と安積疏水が、郡山市教育委員会発行の小学校3・4年社会科副読本・郷土を学ぶ体験学習資料「ふるさと郡山」に掲載されており、毎年教育委員会学校教育課より依頼を受け体験学習を受け入れている。その他に地域公民館事業、商工会事業等で非農家に対しても、猪苗代湖取水口、管理センター、安積疏水管理用発電所において、歴史・施設の維持管理・水の大切さ・地域に対する貢献などを説明している。平成20年は4月から12月まで48団体、2,500人が視察・見学に訪れている。

### 4 取組みの効果

郡山市が毎月発行している「広報こおりやま」にも、水道週間ポスター展で特選になった小学4年生が「安積疏水を勉強し、水への感謝がいっぱいになったので、水の大切さを伝える絵をかきました。」と嬉しい言葉を載せてくれました。郡山市及び県中地域は、猪苗代湖の水がなければ生活出来ない状況を住民は知りませんし、農業水利施設を利用して水道用水や公園の水が運ばれていることを理解していませんので、それらを説明すると、

「安積疏水は、農家の施設だと思っていたけれど、地域にとっても重要な役割を担っている。」などの感想を頂きました。

## 5 国、地方公共団体等の施策支援との関わり

事業名：国営造成施設管理体制促進事業

負担割合 国：事業費の37.5%の50%

県：同上 25%

市町村：同上 25%

事業名：県営かんがい排水事業新安積地区

負担割合 国：50%

県：25%

市町村：15%

地元：15%

事業名：県営用排水施設整備事業青田地区

負担割合 国：50%

県：29%

市町村：10.5%

地元：10.5%

事業名：国営農業水利事業新安積地区

負担割合 国：66.66%

県：17%

市町村：6%

地元：10.34%

## 6 現在の問題点及び今後の改善方向

9月～10月に視察が集中し、限られた人数で対応するので説明に行けない場合がある。上戸取水口には、説明・案内テープがあるが、一方的に話すだけで、質問・疑問には答えられない。



猪苗代湖上戸取水口での説明



安積疏水管理センターでの説明